

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 24 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23510311

研究課題名(和文) 上座仏教徒社会の国家と地域の実践に関する研究 現代ミャンマーを中心に

研究課題名(英文) A Study on the Relationship between Nation State and Religious Practices in Theravada Buddhist Society: The Case of Contemporary Myanmar

## 研究代表者

小島 敬裕 (Kojima, Takahiro)

京都大学・東南アジア研究所・研究員

研究者番号：10586382

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、2011年の民主化後のミャンマーにおける国家と上座仏教との関係を明らかにするための調査を行った。その結果、仏教を擁護する姿勢を示してきた前軍政とは異なり、現政権は仏教への関与を表面化させていないことが明らかになった。

次に、国家の宗教政策と地域の仏教実践の関係について調査を行った。フィールドで得られたデータから、国家規模で推進された制度の水面下で独自の実践を維持する地域に根ざした教派のネットワークや、諸民族の間で継続されてきた在家説法師による仏典朗唱の実践について解明した。

研究成果の概要(英文)： Firstly, I researched the relationship between nation state and Thravada Buddhism in democratized Myanmar after 2011. The result was that the present government does not reveal concern with Buddhism apparently, contrary to the attitude of the military government which saw its role as protector of Buddhism.

Secondly, I carried out fieldwork about the relationship between religious policy and Buddhist practices in local society. Based on the data collected in the field, I found networks of local sects which maintain original practices under the surface of broader institutionalization, and practices of reciting Buddhist texts by lay specialists which have continued among ethnic groups.

研究分野：地域研究

キーワード：ミャンマー 上座仏教 政策 宗教実践 在家信徒

## 1. 研究開始当初の背景

上座仏教の実践に関する人類学的・社会的な研究は、戦後間もなくの時期から開始され、1960年代から70年代にかけて最盛期を迎えた。タイにおける政治権力とサンガ（出家者集団）の関係について扱った先行研究は、戒律によって労働を禁じられたサンガは在家者の物質的支持を必要とし、在家者は布施によって功德を積むためにサンガを必要とするといった相互依存的な関係にあるとした。またタイの王朝時代においては、正法に基づいて国を統治する「正法王」が理想とされており、国王がサンガを擁護し、サンガは正法を嗣続し、正法は国王による支配の正統性原理として機能するといった三者関係が成立していた。その後、国家の中央集権的な政治体制の確立とともに、サンガに対する統制が強化され、地域や民族ごとに見られた多様な実践が排除された結果、仏教実践の標準化が進行したのだとする。

これに対し、研究代表者は、国家によって築かれる制度と、制度には絡めとられない実践の両者に注目することによってミャンマー仏教の社会的現実をとらえようと試み、2003年から2005年にかけて現地調査を積み重ねた。その結果、1980年の全教派合同サンガ大会議以降の宗教政策と、シャン州・カチン州における地域の実践の一端を明らかにしてきた。

しかし研究代表者が調査を行った後、2007年には僧侶も参加した民主化運動が発生し、2011年には民政移管が実現した。そのため、ミャンマー政府と仏教の関係にも変化が生じたことが予想されたが、その実態は明らかにされないばかりでなく、地域の実践に関しても未解明の部分を多く残していた。

その後、研究代表者は2005年から2007年にかけて、中国雲南省徳宏州のミャンマ

ー国境に面した瑞麗市で長期間の定着調査を行った。その過程で、必ずしも出家者の存在を必要としない日常的仏教実践に注目するに到った。この事実は、仏教実践において出家者の存在を不可欠とする先行研究の議論に反するものである。また在家者主導の実践に大きな役割を果たしているのは、地域に根ざすローカルな教派であることが明らかになった。こうしたローカルな教派は、ミャンマーにおける全教派合同サンガ大会議開催以降の公認教派に含まれていない。そこで、在家者を中心とする実践が見られる範囲や、こうした地域に根ざす独自の教派と国家の築く制度の関係について、ミャンマー側での調査から検証していく必要があった。

## 2. 研究の目的

上記の研究動向との研究代表者の調査経験をふまえ、本研究ではまず、宗教政策に関わる諸資料を分析し、特に2011年の民主化以降のミャンマー政府による仏教への関わり方を解明することを目指した。次に、ミャンマー各地でフィールド調査を行い、在家者を中心とする実践が見られる範囲や、国家の宗教政策と地域の仏教徒が築く実践の関係、中でも国家の築く制度に包摂されない実践の動態を明らかにすることを目指した。

以上の作業により、キリスト教の教会と国家に関するモデルや、仏典、タイの仏教関係の法制度などを参照して導き出された従来の上座仏教徒社会モデルに再検討を迫るとともに、上座仏教徒社会の地域における現実を理解するための具体的なデータ収集を目的とした。

## 3. 研究の方法

まず2011年の民主化以降の仏教政策については、ヤンゴンで資料収集ならびに宗教省関係者への聞き取り、寺院数・出家者

数などに関する統計資料の収集を行った。  
また新首都ネーピードーに建設されたオウ  
ッパータタンディ・パゴダにおいて、関係  
者への聴き取り調査や文献資料の収集を行  
った。さらにシャン州東部の山岳少数民族  
地域において、非仏教徒少数民族への仏教  
布教政策や、僧侶教育学校への支援の実態  
に関する調査を行った。

次に、地域に根ざした教派や仏教徒 10  
民族の在家説法師の実践を明らかにするた  
め、シャン州、カチン州、ラカイン州、モ  
ン州、マンダレー管区、ヤンゴン管区にお  
いてフィールドワークを行った。

#### 4. 研究成果

(1)まず現代ミャンマーにおける国家と仏  
教の関わりを解明するための実証的資料と  
して、2014年に開催された国家サンガ大長  
老委員会の会議記録の入手を目指したが、  
本科研の終了する2015年3月までに会議  
記録は公刊されず、入手することができな  
かった。そのため、関係者への聴き取りや  
地域における政策の実態を調査すること  
によって、政府側の方針の把握を目指した。

その結果、まず民主化後に就任したテイ  
ンセイン大統領は、前政権時とは異なり、  
国家サンガ大長老委員会の会議に参加し  
ていないことが明らかになった。またシャン  
州の山岳少数民族地域で調査から、非仏教  
徒少数民族への仏教布教政策や、僧侶教育  
学校への支援など、前軍事政権からの仏教  
普及を目指した諸政策は、2011年の「民主  
化」以降も継続しているものの、その一方  
で、軍事政権下で盛んに行われていた仏塔  
や大仏の建立は、新政権下ではほとんど行  
われていないことも明らかになった。これ  
らの事実は、現政権が仏教から一定の距離  
を取っていることを、少なくとも表面的に  
は示すものであり、仏教を積極的に擁護す  
る姿勢を示してきた前政権とは異なる特徴  
である。

(2)次に、地域に根ざした実践との関わりに  
ついては、シャン州ムーサー郡、ナンカン  
郡での調査から、少数民族シャン、パラウ  
ンの民族独自の教派による実践や、国境・  
民族を越えたネットワークの存在を明らか  
にした。またカチン州モーフニンでは、地  
域に根ざすゾーティー派の見習僧出家式を  
調査し、儀礼の作法がビルマ族の見習僧出  
家式と共通性を持ちつつも、顕著な独自性  
が見られることがわかった。この事実は、  
各国におけるサンガ機構の成立以降、ロー  
カルな教派が消滅に向かい、実践の標準化  
に向かったとされる従来の上座仏教徒社会  
研究での議論を相対化するものである。

(3)また仏教徒諸民族に対する聴き取り調  
査の結果、10民族中9民族において在家の  
仏典朗唱専門家が存在していることが明ら  
かになった。確かにサンガ機構が成立した  
1980年代以降は、交通網の発達もあり、ミ  
ャンマー中央部で教理学習を受ける出家者  
が増加し、僧侶の教学レベルが上昇した結  
果、在家者よりむしろ出家者が説法の役割  
を担う傾向が強くなっている。しかし村落  
部では、在家の説法師が現在でも仏教実践  
において重要な役割を担っている。さらに  
研究代表者が注目してきた中国雲南省徳宏  
州における僧侶不在の実践形態は、現代ミ  
ャンマーではほとんど見られないが、時代  
を遡れば国家の周辺地域では見られたこと  
が明らかになった。これらは、先行研究で  
も言及されてこなかった発見であり、上座  
仏教徒社会における出家者と在家者の役割  
についての議論に再考を迫るものである。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に  
は下線)

〔雑誌論文〕(計9件)

小島敬裕、災難と積徳行-中国雲南省徳宏  
タイ族の事例から、CIAS Discussion

Paper 『積徳行と社会文化動態に関する地域間比較研究-東アジア・大陸東南アジア地域を対象として』、査読無、No.46、2015、51-58

小島敬裕、ミャンマー・シャン州ナムサン周辺地域における山地民パラウンの移動と仏教実践の動態、CIAS Discussion Paper 『移動と宗教実践-地域社会の動態に関する比較研究』、査読無、No. 47、2015、67-80

小島敬裕、ミャンマーにおける仏教徒諸民族の在家説法師たち、『宗教実践における声と文字-東南アジア地域からの展望』、査読無、2015、39-52

小島敬裕、中国・ミャンマー国境地域における徳宏タイ族仏教徒の人生と姓名、『マテシス・ユニウエルサリス』、査読無、16巻2号、2015、55-70

Kojima Takahiro and Nathan Badenoch, From Tea to Temples and Texts: Transformation of the Interfaces of Upland-Lowland Interaction on the China-Myanmar Border, *Southeast Asian Studies*, 査読有, Vol.2, No.1, 2013, 95-131  
<http://hdl.handle.net/2433/173782>

小島敬裕、中国雲南省徳宏州における仏教徒社会のマッピング、CIAS Discussion Paper 『宗教実践を可視化する-大陸部東南アジア上座仏教徒の寺院と移動』、査読無、No.42、2014、59-68

小島敬裕、仏教実践に見られる平地民と山地民の民族間関係-中国・ミャンマー国境地域におけるタイ族とタアン族の事例から、『フィールドプラス』、査読無、No. 11、2014、8-9  
[http://repository.tufs.ac.jp/bitstream/10108/78047/1/field-11\\_p08-09\\_kai.pdf](http://repository.tufs.ac.jp/bitstream/10108/78047/1/field-11_p08-09_kai.pdf)

小島敬裕、ミャンマー初代首相ウー・ヌの亡命、『アジ研ワールド・トレンド』、査読無、No. 209、2013、24-27  
[http://d-arch.ide.go.jp/idedp/ZWT/ZWT201302\\_009.pdf](http://d-arch.ide.go.jp/idedp/ZWT/ZWT201302_009.pdf)

Kojima Takahiro, Tai Buddhist Practices in Dehong Prefecture, Yunnan, China, *Southeast Asian Studies*, 査読有、Vol.1, No.3, 2012, 395-430  
<http://ci.nii.ac.jp/els/110009494985.pdf>

[学会発表](計14件)

Takahiro Kojima, How the Palaung

Buddhist Migrated and created Their Own Religious Practices in Northern Myanmar, International Workshop on *Migration and the Remaking of Ethnic/ Micro-Regional Connectedness*, 5-6<sup>th</sup> December 2014, National Museum of Ethnology

小島敬裕、中国・ミャンマー国境地域における徳宏タイ族の宗教と姓名、国際ワークショップ『姓名とエスニシティ：東アジアの中の多様性』、2014年7月19日、獨協大学

小島敬裕、周縁から再考する上座仏教徒社会モデル-中国・ミャンマー境域を事例として、『日本タイ学会第16回研究大会』、2014年7月5日～7月6日、京都大学

小島敬裕、ミャンマー・シャン州ナムサンにおける山地民パラウンの越境と仏教実践の独自性、『東南アジア学会第91回研究大会』、2014年6月7日～6月8日、南山大学

Takahiro Kojima, Movement of Buddhists between China and Myanmar, International Workshop on *Reconsideration of the Historical and Contemporary Land-rout Connection between South Asia and South East Asia*, 9th March 2014, Inamori Memorial Hall, Kyoto University

Takahiro Kojima, Tai Buddhist Practices on the China-Myanmar Border, International Workshop *Myanmar from the Margins*, 14<sup>th</sup> November 2013, Institute of Southeast Asian Studies, Singapore

小島敬裕、中国・ミャンマー国境地域における仏教徒の移動と地域社会、合同ワークショップ『地域情報学と境界研究が出会うとき 国境問題・宗教・環境』、2013年9月29日、京都大学稲盛財団記念館

小島敬裕、中国・ミャンマー国境の地域社会と徳宏タイ族の仏教実践、東方学会ワークショップ『多様な境界線とマイノリティ:中国語圏の事例の検証』2013年7月20日、東方学会

Takahiro Kojima, Theravada Buddhism and Interethnic Relations: Local Practices of the Shan and Palaung of Northern Myanmar, *8th International Convention of Asia*

*Scholars*, 25<sup>th</sup> June 2013, The Venetian Macau Resort, China

小島敬裕、中国雲南省徳宏州における仏教徒社会のマッピング、国際シンポジウム『大陸部東南アジア上座仏教徒における実践の時空間マッピング』、2013年2月27日、タイ・チュラロンコーン大学

Takahiro Kojima, Cross-boundary Dynamics and Local Buddhist Practices on the China- Myanmar Border: A Case of Tai Dehong, Yunnan, Asian CORE Workshop on *Interface, Negotiation, and Interaction in Southeast Asia*, 23rd February 2013, Kyoto University

Takahiro Kojima, Change and Continuity of Tai Buddhist Practices on the China-Myanmar Border: A Case from Dehong Prefecture, Yunnan, China, *111th American Anthropological Association Annual Meeting*, 17<sup>th</sup> November 2012, San Francisco Hilton Union Square

小島敬裕、中国雲南省徳宏州における仏教実践の断絶と再構築、『日本文化人類学会第46回研究大会』、2012年6月23日、広島大学

Takahiro Kojima, Tai Buddhist Practices between China and Myanmar: A Case in Dehong Prefecture, Yunnan, Asian CORE Program Seminar "*Interface, Negotiation, and Interaction in Southeast Asia*", 28-29th February 2012, Center of Asia-Pacific Area Studies, Academia Sinica, Taipei

〔図書〕(計5件)

小島敬裕編、京都大学地域研究統合情報センター、『移動と宗教実践—地域社会の動態に関する比較研究』、2015年、128ページ

小島敬裕、京都大学学術出版会、『国境と仏教実践—中国・ミャンマー境域における上座仏教徒社会の民族誌』、2014年、330ページ

田村克己・松田正彦編、明石書店、『ミャンマーを知るための60章』、2013年、188-192ページ

小島敬裕、風響社、『中国・ミャンマー国境地域の仏教実践—徳宏タイ族の上座仏教と地域社会』、2011年、68ページ

新井一寛・岩谷彩子・葛西賢太編、せりか書房、『映像にやどる宗教、宗教をうつす映像』、2011年、104-106ページ

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小島 敬裕 (KOJIMA, Takahiro)  
京都大学・東南アジア研究所・研究員  
研究者番号：10586382